

川崎市川崎区のクマゼミ

坂本 憲一*

Record of *Cryotympana facialis facialis* (Walker) from Kawasakiku, Kawasaki City

Norikazu SAKAMOTO*

2003年、川崎区にてクマゼミの羽化に至らなかった個体を採集したので報告する。2003年8月3日川崎市内のセミの鳴き声調査にて夕刻、川崎区桜本1丁目桜川野球場周囲の樹木にて羽化中のセミを見つけ写真を撮ろうとファインダーを覗いた。すぐに本種の特徴である中脚と後脚の間の中央の突起に気付きシャッターをきった(写真1)。羽化の写真を撮るべく粘ったが、折から吹く風の影響か一向に成虫の体が殻から完全に出てこない為、撮影を断念し採集した。羽化しようと止まっていた樹木はモクセイ科のトウネズミモチ(写真2)で、根元近くにやや大きめの幼虫の脱出穴と推測される穴を後日同地点を訪れたとき確認した(写真3)。性別を確認すべく腹部末端を見ると雌であった(写真4)。

川崎区在住のかわさき自然調査団昆虫班の田中努氏によると、桜川野球場周辺はかつて緑の多い環境にあり、後に整備されて現在に至るとのことである。従って球場付近のごく最近の植林は未確認であるが、成虫がここで産卵した個体の可能性がある。

平塚市博物館41 セミのぬけがら調べ1994(編集担当:浜口哲一)によるとP76「…、ぬけがらが発見されたなら、その周囲の木が7、8年前に植栽されたかどうか、それがどこからもってこられたかなどについて可能な限り追跡を行う必要がある。」という記述がある。この点については、現段階では未確認で推測の域を出ない。参考までに、同調査にて同年8月24日、川崎区四谷上町、義田稲荷神社から道を隔てて斜め向かいの小公園にてクマゼミの鳴き声を(1個体)確認している。今後も本種の動向を注意深く見守って行きたいと思う。

最後にこの短報の発表を薦めて下さった、かわさき自然調査団昆虫班班長代理の岩田芳美氏、そして川崎区桜川野球場周辺のかつての環境についてご教示くださった、かわさき自然調査団昆虫班の田中努氏に厚く御礼申し上げます。



写真1



写真2

*かわさき自然調査団

参考及び引用文献

雛倉正人, 2002. 川崎市幸区のヒゲコガネ 川崎市青少年科学館紀要13号(13): 117.

浜口哲一(編集担当), 1994. 平塚市博物館資料41セミのぬけがら調べ.

石原保(監修), 1996. 学研生物図鑑 昆虫Ⅲ 第4刷.



写真3

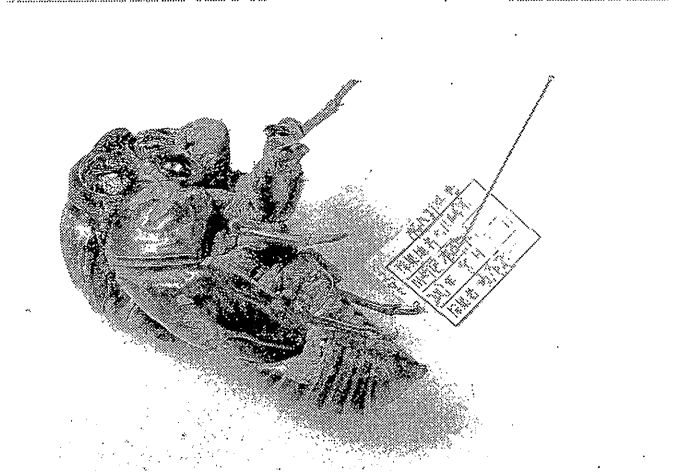


写真4